

第15回 PCV漏えい試験検討会 議事録

1. 開催日時 平成22年10月28日(木)13:30～15:00
2. 場所 日本電気協会 4階A会議室
3. 参加者
委員: 坂口主査(関西電力), 久保田(日本原子力技術協会), 小林(三菱重工), 佐藤(北海道電力), 辰尾(北陸電力), 都築(四国電力), 中野(東北電力), 日野(九州電力), 三谷(中部電力), 味森(東芝), 油布(日本原子力発電) (計11名)
代理参加者: 小武守(臼井代理, 中国電力), 広木(小林代理, 日本原子力研究開発機構), 森(鈴木代理, 原子力安全・保安院), 枡(矢尾板代理, 電源開発) (計4名)
常時参加者: 菅原(東京電力) (計1名)
欠席者: 石崎(東京電力), 井口(発電設備技術検査協会), 大坂(日立 GE ニュークリア・エナジー), 大庭(関西電力) (計4名)
事務局: 黒瀬, 大滝(日本電気協会)
4. 配付資料
資料 15-1 第14回PCV漏えい試験検討会議事録(案)
資料 15-2 JEAC4203 原子炉格納容器の漏えい率試験規程の改定検討の進め方(案)
資料 15-3 原子炉格納容器の漏えい率試験規程 JEAC4203-2008 改定での検討提案
参考資料 1 第28回構造分科会議事録(案)
5. 議事内容
 - (1) 主査の選任について
前回の検討会から期間が開き, その間に主査が退任されたため, 現在の委員の中から坂口委員が推薦され, 全員の賛成により主査に選任された。
 - (2) 会議定足数の確認について
坂口主査から委員の定足数の確認があり, 事務局より, 委員総数 19 名に対して代理を含めた出席委員数は 15 名で, 「委員総数の 3 分の 2 以上の出席」という会議開催の条件を満たしていることを報告した。
 - (3) 代理参加者及びオブザーバ参加者の承認
坂口主査より, 上記代理参加者 4 名及び常時参加者 1 名の会議参加が承認された。
 - (4) 前回議事録(案)の確認
事務局より, 前回議事録(案)の概要を報告した。5. 議事内容(6)の誤記(誤 JESC 正 JEAC)を修正することで, 承認された。
 - (5) 今後の規格改定に向けたスケジュール検討について
坂口主査から, JEAC4203「原子炉格納容器の漏えい率試験規程」の改定検討の進め方について資料 15-2 で説明し, 承認された。

(6) 次回規格改定に向けての検討

坂口主査が、今回、当検討会の開催に至った経緯を、参考資料1「第28回構造分科会議事録(案)」の5.議事(5)で説明した。

その後、資料15-3「原子炉格納容器の漏えい率試験規程 JEAC4203-2008 改定での検討提案」について構造検討会の藤澤委員より検討提案に至った経緯及び内容について説明があった。以下に議事を示す。

【検討提案1】

- ・校正データがヒステリシスとは、どのようなことをイメージしているのか？
圧力計や温度計で、校正データが昇圧や昇温する時の指示値と減圧・降温する時の指示値で、異なったプロットをする場合の校正データの取り扱いをどうするのか書いてほしいということを意図したもの。具体的には、昇圧や昇温する時のデータを使用、減圧・降温する時のデータを使用、平均値を使用、のどれを使用するのか明確にした方がよい。
器差補正をどのように扱っているのか整理して、次回検討会で議論する。

【検討提案2,3】

- ・事故後30日間の外挿評価方法に踏み込んだ指摘であるが、この規格で求められているのは、ある期間の漏えい率試験から1日の漏えい量を求める規格なのか、事故時のことを想定して30日間の漏えい量を推定するための規格なのかという前提条件について認識を統一しておく必要がある。
事故時を想定した評価とこの規格の関係性を整理して、次回検討会で議論する。

【検討提案4】

- ・図3.1.6の右下の図で、 $Pm1/T1$ の線は完全に理想の状態であれば直線になるが、測定誤差等もあり直線状に必ずしもなるものではない。ある程度は直線状に沿って変化するものと考えられる。
現状の運用がどうなっているのか？ $Pm1/T1$ の図をどのように見て、使用しているのか、次回検討会に紹介する。
- ・図3.1.6の左下の図と右下の図で、データの変化に整合がとれていないように見える。
次回の改定時にデータの整合を取ったものに修正する方向で調整する。

【検討提案5】

- ・解説図3.2-1.1のデータは右下がりに見える。
解説図の表現を見直す。次回検討会に紹介する。

【検討提案6】

- ・漏えい率試験で仮設機材が格納容器バウンダリを構成しているのであれば、その撤去後のバウンダリ健全性確認が必要である。
仮設機材の運用について次回検討会に紹介してもらい、それを元に次回検討会で議論する。

(7) その他

- ・次回分科会は，1月開催の予定とする。詳細日程は後日調整する。
- ・次回以降，当検討会に出席する際は，「原子炉格納容器の漏えい率試験規程 JEAC4203-2008」を各自持参することとする。

以 上